

## バグダッド 日 誌 (2月2日)

○ [ ] はサムライだ！(マケドニア・鬼瓦少佐談)

現在ナイト・シフト(夜7時～朝7時までの勤務)でMNC-I情報部で勤務している [ ] は、各国の幕僚と伍して情報分析にあたっている。

第5次連絡班がバグダッドに到着して早々、 [ ] は命題研究チームのリーダーに指名され、2週間後にチームとしての研究結果を情報部分析チーフ(米陸軍少佐)に発表しなければならなくなった。命題研究チーム・リーダーは通常バグダッドでの勤務に慣れてから実施するらしいのだが、今回の研究テーマが難しく、だれもチーム・リーダーをやりたいがらなかった。そこで情報部分析チーフが「 [ ] 、やってみないか? 」というと、 [ ] は「イエス、サー! 」と元気に答えた。この時、 [ ] は、情報部分析チーフが何を言っているか聞き取れず、「つい」言ってしまったそうである。

かくして、 [ ] の試練の日々が始まった。マケドニア、ラトビア、アルバニア等のチームメンバーを率いて毎晩ミーティングを持ち、侃々諤々の議論を戦わせながら命題研究をすすめた。先日述べたように、時間に厳格なのは日本だけで他の国はかなり余裕をもって行動する。このため、なかなか研究作業はすすまない。ミーティングをやっても言葉の壁、仕事のやり方の違い等で随分苦勞していた。また慣れないナイト・シフトの生活のため疲れも大分溜まっているようだった。

昨日、夜8時から研究成果発表があり、見学に行くとデイ・ナイトスタッフが全員集まってきた。 [ ] は、約1時間にわたり研究成果を発表したが、発表後に沢山の質疑応答があり、今回の発表の成否が一瞬にみてとれた。

発表後、 [ ] とともに命題を研究したマケドニアの鬼瓦のような顔の少佐が、私の所に来て「 [ ] は、良い仕事をする。 [ ] はサムライだ! 」と報告してくれた。

また、情報部分析チーフに日本スタッフの仕事ぶりを聞いたところ「大変研究熱心で、礼儀正しい。几帳面で時間に遅れることがない。素晴らしい仕事をしてきている。」とのことであった。多少、社交辞令が含まれているとはいえ、大変嬉しく思った。

各国のスタッフがいやがる仕事を進んで(?)実施し、誠実にねばり強く仕事をする姿がマケドニアの鬼瓦少佐をして「サムライ」と言わせたのかもしれない。サムライ魂を見せてくれた [ ] は、今日から少しだけ枕を高くして眠れると思う。 [ ]



## バスラLO日々業務報告(2月2日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [ ] [ ] (警戒態勢) : [ ]
2 特記事項	(1) [ ] (2) [ ] [ ]
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [ ] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝会議・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 空路輸送等調整 (5) 師団長表彰(2/2)同行
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議への出席 (3) CME会議調整、J4会議調整
5 その他(備考)	